

平成28年度第3回幹事会の概要

◆日時／場所／参加者

日 時：平成29年1月31日（火）14：00～16：50

場 所：佐賀県自治会館4階 大会議室

参加者：役員17名（うち2名代理出席）、事務局4名 ※欠席8名

【次第】

1 開会

2 会長挨拶

3 議題

(1) 今年度下半期事業報告について【報告事項】

(2) 次期中期推進項目及び来年度事業の方向性について【協議事項】

(3) 来年度第1回ICT利活用講演会テーマ選定について【決議事項】

5 その他

(1) 次期幹事・各G構成員公募について

(2) 第4回幹事会開催日程について

6 閉会

◆協議した事項

< (1) 今年度下半期事業報告について【報告事項】 >

[1] はじめてのスマホ・タブレット講座 in 鹿島【スライド 9～11】

- ・参加者の応募状況は？また高情協事業と各団体の事業の違いや連携は？（西村座長）
 - 昨年と比べて、スマートフォン講座の申込が高い印象。（事務局）
 - シニアICT団体としても、スマホ等の普及を進めていきたい。（大間幹事代行）
 - 高情協主催講習会への参加者は、初めて触る方が多い印象。高情協主催講習会の参加者に、同じ地区で開催される団体主催の講習会を案内（久野幹事）
- ・シニアICT団体で、県内全域での講習会を開催可能か？（志波幹事）
 - SIA佐賀はスマホの需要が多い中で、端末を企業から提供してもらったので、端末の心配は要らないが、指導者の数が不足しており、また交通費の負担などから、県内全域での講習会の開催は難しい。（久野幹事）
 - Wi-Fi環境のある会場が足りない。指導者・サポーターが不足。（大間幹事代行）
 - ⇒ まだまだシニアICT団体主催講習会だけでは、県内全域をカバーできていないので、しばらく本事業は必要と思われる（志波幹事）

[2] 高情協の広報について【スライド 12～15】

- ・広報についてどのような評価しているか？
 - 会員専用ページの更新について、うまく運用できていない。（事務局）
 - HPは、アクセス数をコンテンツ毎に調べることは可能（青木幹事代行）
 - 効果測定については、何をもってこのイベントを知ったか参加者へのアンケート

トを検討したい。(事務局)

- ・HPが使い勝手のいいものと分かれば、会員からのコンテンツの提供も増えてくると思うので、年度当初総会等で報告した方が良い。(西村座長)

[3] ICT 利活用取組事例視察について【スライド 16～26】

- ・視察のレポートはどこまで公開？
→ 視察先の意向を聞いて、公開できるもの・できないものを判断してもらい、概要はHPに掲載し、詳細なレポートについては、会員のみで共有(事務局)

[4] 買物困難者支援実証事業・ICT 利活用促進調査研究【スライド 29～51】

- ・数年前より「実事業をやる」という目標があがって、ようやく動き始めた。ぜひ、販売者・通信事業者・県民の3者が利益を享受できるモデルとなり、スケールを拡大することによって、自立事業となっていくように目指してほしい。(大野副会長)
- ・「ICTありき」ではなく、ICTとは違う切り口も合わせて取り組んだ方が良いのではないか？(松前副会長)
- ・アウトプットが広がるように取り組んだ方が、会員の満足度が上がるのではないか。ICTに決め打ちし過ぎると、大事なものを見失ってしまいかねない。(西村座長)

※事務局補足説明

- ・当該実証事業は、中期推進項目③「県民が実感できる効果的なICTの利活用促進」に関する事業であり、特に唐津エリアでの実証については、次のような仮説の下に、ICTの便利さを実感してもらうための仕組みを検討するために実施するものです。

<仮説>

- 既存店舗が提供している既存のネットスーパーのサービスについて、実際に買い物に不便を感じられている方のうち、ICTリテラシーが十分でない層の方々との間にミスマッチが起きており、そのミスマッチについて、①「拠点型(導入コストの縮減)」+「使いこなし支援」を行うことにより、解消できるのではないか？
- ・松前副会長や西村座長のご意見にあるように、「買物困難者対策」そのものを進めるためには、「ICT決め打ち」ではなく、物理的な手法も含めた様々な方法(買い物巡回バス? 乗り合いタクシー? Uber?)について検討が必要なのかもしれませんが、本協議会の実施するこの実証事業では、「ICTの効果を実感」してもらうための「1つのテーマ」としての「買い物」の分野を選定したものと理解しております。
- ・このため、実証実験としては、「『ICT』の利活用によれば、このような対策が、これくらいのコストで、これくらいの効果が見込まれる」という知見を得ることが目的となるものと考えます。

③県民が実感できる効果的なICTの利活用促進

医療・福祉、健康増進、観光、農林水産業や商工業等において、県民が「効果を実感できるICTの利活用」促進に資するため、佐賀県内の企業、自治体、大学などの産学官の連携を促して、ICTを活用した「仕組み」を検討し、きっかけとなる取組の企画立案や核となる人材育成等を行う。

< (2) 次期中期推進項目及び来年度事業の方向性について【協議事項】 >

[1] 次期中期推進項目及び来年度事業の方向性について【スライド 53～57】

- ・2年前に中期推進項目を決定した際の手順については？（西村座長）
→「企画運営Gで提案→幹事会で練る→総会で承認」

<企画運営Gより説明>

- ・①と②については、従来から高情協が力を入れてきているところであり、
- ・③は、まだ成果が出せていないので、3つとも継続で進めていきたい（岩永幹事）

<主な意見>

- ・このまま総会の資料に載ると、2年間で何も進歩していないと捉えられる。
2年間で必ず情勢は変化しているので、取組みの軸足を新しいものに変える必要があるのではないか。（大野副会長）
→ ご指摘のとおり、産業界におけるセキュリティ（ランサムウェア）、AIやIoTなど時代の流れにあった内容の表現が、次期計画の中に含まれていないのは、時代を先取りしていくべき高情協としてはさびしいものがある。（事務局）
- ・変容している世の中の現状が分かる表現が入った方が良い。（志波幹事）
- ・2年間の成果として、数値目標を設定する必要があるのではないか？（松前副会長）
→ 成果を正しくはかる指標が、なかなか見出しきれない状況にある。
企画運営Gでも検討を重ね、模索していくようにしていきたい。（事務局）
- ・大きな3つの柱は変わることはないのかもしれないが、中身のアップグレードは必要で、新たな目標の方向性を示すべきだと思われる（西村座長）
- ・企画運営Gと事務局で、今回の協議で出た意見を参考にして、3月の幹事会に再提案を行っていただくこととする。（西村座長）

◆決議した事項

< (3) 来年度第1回ICT利活用講演会テーマ選定について【決議事項】 >

<事務局説明>

- ・前回、前々回の講演会参加者のアンケート結果からは、「IoT」への関心が高く、またIoT関連では、IoT機器を踏み台としたDDoS攻撃の事例などが散見されることから「IoT+サイバーセキュリティ」としてはどうか。
- ・総会後の1回目の講演会は、「先々の最先端のビジョン的なテーマ」、2回目の講演会は、「より身近で県民が実感できるようなテーマ」を選定しているようになっている。

<主な意見>

- ・“IoT”と言っても技術面の話なのか、IoTで何が変わる？といったビジョンの話かで内容が全く異なってくる。また、「セキュリティ」を加えると、技術の話に偏ってしまい、狭いテーマとなるので、1回目の講演会のテーマとしては、「5～15年後を

見据えたビジョン」としてのIoTをテーマにした方が良い。(志波幹事)

⇒ 時間の都合上、今日の幹事会では決定まで至らないので、サイボウズによって、2月7日(火曜)を期限として、今回出たご意見を踏まえて、各自テーマ(できれば講師候補まで)案を提出。その結果をもって幹事会決定とする。

◆高情協の方向性について【議論】

<藤原会長より>

- ・高情協は、長年従事されている方にとって、大変思い入れのある組織だということは承知。
- ・一方では幾度となく『在り方』について議論されてきた経緯あり。また今日の議論でも、「次期幹事の募集がない」「次期中期推進項目について変化が見られない」など、高情協の活動の方向性については悩んでいる部分があるように感じている。
- ・会員である民間の方々の率直な意見を聞きながら、「誰のために」「何のために」やっている事業なのかを認識した上で、方向性について検討を進めていきたい。

<幹事からの意見>

【西村座長より(存続賛成意見)】

- ・組織は時間が経てば変化していくもの、突き詰めて必要がないと判断されれば、ゼロにしてしまうことも一つの選択肢である。しかし、「次期幹事の募集がない」などの現象面だけで判断するのは時期尚早だと思われる。

↓

高情協は「まだ必要」との見解を前提として、以下に意見陳述

◆高情協は「官・学・民(CSO含む)のインターフェース」としての役割を果たすべき

(1) 一般的な印象

- ・相変わらず、官・学・民の距離がある
- ・単独で企業やCSOが官に働きかけて協業することは困難

(2) 課題と今後の具体策

A) 課題(=実状)

- ・学・民が高情協という中間組織の可能性を理解・活用できていない
- ・官も高情協の立ち位置を整理できていない。

B) 具体策

- ・提言機関として位置づける
- ・プロジェクト支援を復活し、パイロット事業を公募(採用ハードルは高く設定)
 - 実験までは踏み込まない(実施者の負荷が高い)
 - 結果を総会で発表
 - 会員に情報提供し、必要なら官に予算化を促す

◆高情協は「知の共有・再配分」を行うべき

(1) 一般的な印象

- ・トレンドを追うと、近視眼的な情報収集になりがち
 - しかし、中長期的変化に関する情報を集めることは困難
 - 情報を集約するのは難しい

(2) 課題と今後の具体策

A) 課題 (=実状)

- ・講演会が中心で、1テーマ一度きりに留まっている。
テーマを絞りすぎている？
- ・来場した人にしか情報提供できていない。

B) 具体策

講演会は続けていきつつ・・・

- ・未来社会について調査研究し、地方モデルを推測する。(2年スパン)
- ・レポートは会員のみ還元、中長期事業計画の基礎資料として活用してもらう。
- ・幹事会直轄事業とするが、学もしくはCSOとの協業を必須とする。
- ・市民活動、学生の育成及び活動活性化にもつながる。

【志波幹事より (存続賛成意見)】

- ・産官学で議論できる場として貴重である。
- ・最先端の内容の講演を聴くにも佐賀にはない(県の予算では旬なテーマで開催できない)ので、高情協で開催できることは良い。
- ・高情協には活用の仕方により、存在意義を見出せる。

※大野副会長より

議論の状況が把握されていない幹事に対して、

「高情協は今の活動のままでよいのか?」「高情協は本当に役に立っているのか?」

「高情協はやめちゃっていいのではないのか?」

という議論であることを説明され、

次の議論に移すためにも、全幹事にご意見を伺うことを提案。

【大野幹事(武雄市)より】

- ・高情協HPは見られている感じがしない。(会員間だけの情報共有に思える)
 - 武雄市からは情報を出していない
 - 会員にメリットを感じられるHP・FBの運用にしてほしい
- ・自治体として高情協へのメリットを見出すことができていない。
- ・以前のような先進的な研究や情報を出してくれれば、必然的に取りに行くと思う。

【牧幹事より】

- ・これだけの会員がそろっているのに、勿体ない気もするが、伸びしろ、存在意義は

あると思う。

- ・セキュリティ関係事業については、後援という立場で調整役になっているが、もっと主体的立場で関わっていただけると良いのではないかと思う。

【堤幹事より】

- ・IT人材育成する立場として、高情協の設立は大変ありがたかった。
- ・高情協で得たものを学校にフィードバックし、IT教育に活かすことができる。
- ・県内IT産業が発展すれば、学生の就職環境も良くなるので、ぜひ存在してほしい。

【下木幹事より】

- ・すぐにゼロとするのではなく、継続しながら情報提供してほしい。
- ・実験よりもリサーチに重きを置き、それを会員に還元する形の方がよい。

【小寺幹事より】

- ・商工業者にとって一番良い情報を収集できる場である。
- ・県内全域での活動であるため、佐賀商工会議所ではなく佐賀県商工会議所連合会の立場として関わっていただければ、企画運営Gも含めやりやすいと感じている。
- ・現在、企画運営Gはリーダー不在の問題があり、現状としてうまく回っていない。かじ取り役が決まったらうまく動き出せば、また力を入れ直してやれると思う。

【能隅幹事より】

- ・高情協からの情報提供は有難い。提供された情報を、唐情協会員に回すと反応がある。

【松前副会長より】

- ・大学としては、地域や市町との連携を行動指針として考えているが、うまく回せていないジレンマがある。
 - 高情協がインターフェースの機能を果たしてくれれば、大学だけでなく企業のキーマンや行政との意見交換の場として有益と思うので、必要だと感じる。将来的にどうなるか分からないが、今無くすのは早すぎる。

【長谷川幹事より】

- ・民間としては、自社の利益をどうしても考えざるを得ないが、一方では地域貢献も考える必要がある。
- ・「高度情報」の捉え方をICTに決めつけない方向性でいけば、官と民とのインターフェースとして有意義だと感じる。

【岩永幹事より】

- ・在り方については、見直しが必要。
- ・幹事や各G等の役に参加することに、時間的負担の問題等限界を感じている。

- ・関わっている方（会員・幹事等）にしっかりとしたメリットを感じてもらえるワクワクするような事業の計画ができれば良いと思う。
→ 「きつかったけど楽しかった」と思えるような見直しをしてほしい

【青木幹事代行より】

- ・（HPへの情報提供状況を見ても）幹事企業の参加意識に濃淡がある事に課題

【江島（良）幹事より】

- ・佐賀県の役に立ちたい思いで参加しているが、企画運営Gとしての活動に負担が出ている。
→ 各グループ制については、見直しの機会が必要ではないかと考える。

【大間幹事代行より】

- ・団体でのICT普及活動において、名目的にも高情協のバックアップがあると有難い。

【久野幹事より】

- ・これだけのメンバーが集まっている組織は他にそうない。後ろ向きではなく、ぜひ前向きな検討をしてほしい。
- ・SIA 佐賀には多くのアンケート情報を持っているので、ぜひ産官学で情報共有し、活用することで、お互い協力できるようになってほしい。

【事務局長より】

- ・高情協は、良くも悪くも民主的に運営されてきた。
- ・サイレントマジョリティの団体もあるが、予算執行の透明性などは確保されてきた
- ・会員の「志」の高さはあったと思う
- ・手段と目的論があり、目的論がおかしいのであれば、ゼロベースでの議論もありうる
- ・「鹿児島県地域産業高度化産学官連携協議会（H29.1 設立）」の例を紹介
※地域資源に基づく新たなイノベーション創出のエンジンになると期待されている
→ 目的は違えど、他県では産学官による協議会が新たに立ち上げられていることを横目に見ながら議論していくと、正しい方向性が導かれるのではないか？
- ・現時点での県のポジションは中立中庸である
- ・鹿児島のようなIoTなど今後のICT利活用の方向性を踏まえると、今の高情協がどうなのか？という課題はあるけれども、「今が変革のとき」かどうかは議論が尽くされるべき

《今後の検討の進め方》

○検討を進めるチーム編成について

1. 産・学・官のグループを分散
2. 初期・中期・新規を交える

3. なるべく若い方も含める
4. 人数はあまり多くないように（運営しやすいように）

○検討の進め方について

◇なるべく集中的に検討を実施すべき

- ・総会に間に合うように結論を出すことは厳しい
- ・検討している状況を総会で報告できるとよい。
- ・検討期間は総会までと区切らない方がよい。

◇次の3月幹事会の議題に組み込み、今後どのように検討を進めていくかを話し合う。（それまでに、進め方及び年間のスケジュール案を作成）

◆次の行動

<幹事>

◇講演会テーマについて、今回出た意見を踏まえて、各自でテーマ（できれば講師候補まで）案を出し、テーマを決定（提案はサイボウズにより、2月7日（火）まで）

<企画運営G+事務局>

◇中期推進項目について、今回出た意見を踏まえて、「次期中期推進項目（案）」の具体的な取組方針（柱ではなく説明部分）を検討し、3月幹事会にて再提案できるようにする。（3月上旬を目途）

<事務局>

- ◇講演会の講師候補については、幹事会（サイボウズ）によるテーマ決定を受け、講師候補を決め、サイボウズにより、決議いただく。（2月末を目途）
- ◇今後の方向性の検討については、3月幹事会の議題に、今後の進め方（メンバー、スケジュールなど）についての資料を作成（3月幹事会まで）